

令和3年度

田上町教育に関する事務の
点検及び評価報告書

令和4年9月

田上町教育委員会

目 次

1. 学校教育環境の整備			
教育方針の計画的な展開	総合評価：A (83.3)	P 1	
家庭や地域との連携	総合評価：B (75.0)	P 2	
教育環境の整備	総合評価：B (75.0)	P 4	
2. 教育内容の充実			
学ぶ意欲と確かな学力の向上	総合評価：A (85.0)	P 7	
創意工夫を生かした教育活動の充実	総合評価：B (75.0)	P 8	
いじめ、不登校に対応した指導体制	総合評価：B (68.7)	P 10	
特別支援教育の充実	総合評価：B (75.0)	P 11	
3. 生涯学習の条件整備			
生涯学習推進体制の強化	総合評価：B (62.5)	P 13	
指導者・指導体制の充実	総合評価：B (75.0)	P 14	
施設整備	総合評価：A (87.5)	P 15	
4. 主体的な学習活動の支援			
学習機会の充実	総合評価：B (79.5)	P 16	
主体的な活動への支援	総合評価：B (66.6)	P 19	
5. 生涯スポーツの推進			
生涯スポーツの普及	総合評価：B (70.0)	P 21	
スポーツ施設の整備	総合評価：C (50.0)	P 22	
主体的な活動の促進	総合評価：B (75.0)	P 23	
6. 芸術・文化の振興			
芸術文化活動の推進	総合評価：B (75.0)	P 25	
活動組織、指導者の育成	総合評価：B (75.0)	P 26	
7. 文化財と伝統芸能の継承			
文化財の保存・活用	総合評価：C (58.3)	P 27	
伝統芸能の継承	総合評価：C (50.0)	P 28	

評価方法

各事業評価の数値化

a = 期待される水準をはるかに上回っている (100)、b = 十分満たしている (75)、
c = 満たしている (50)、d = あまり満たしていない (25)、e = 満たしていない (0)

各項目の評価基準 A=100~81 B=80~61 C=60~41 D=40~21 E=20 以下

各事業の評価を数値化し、その平均値を上記の評価基準に基づいた総合評価を行った。

(小数点第2位以下切り捨て)

※各事業評価右側の () 内は、前年度の評価を明記しております。

1. 学校教育環境の整備

教育方針の計画的な展開

総合評価：A (83.3)

施策のねらい

田上町の教育方針の理解推進を図り、教育方針に沿った学校運営、教育活動を展開する

(1) 「田上の12か年教育」の理念継承 評価：b (b)

【事業の概要】

「田上の12か年教育」の理念と取組を園・学校・地域が共有し合って、互いの役割を担いながら田上の子どもの教育にあたる。

【成果】

田上の12か年教育の中核であるキャリア教育に係る事項並びに主体的・対話的で深い学びに係る事項について、年中園児から中学3年生までと教職員全員を対象にアンケート調査を行った。その結果を園・学校に示すとともに、単年度のグランドデザインにして全教職員に配付し、周知した。園・学校がミッションと連携の重点、互いが担い合う役割等を理解し合って、田上の子どもの指導にあたるようにした。

【課題・意見】

校長のリーダーシップと説明努力で保護者・地域から学校に関心を一層深めていただき、学校の応援団を増やしていく。

(2) キャリア教育の推進 評価：b (b)

【事業の概要】

田上の子どもが田上で多くの人と関わり、多様な経験を積んでいく活動を通して、「夢に向かう力」、「課題を捉え解決する力」、「自分の良さの可能性を見つけ発揮する力」、「よい人間関係を構築する力」、「田上への愛着心」を育む。

【成果】

町内の商工業者やPTA、学校関係者、教育委員会等で組織する「田上町キャリア教育推進協議会」を設置し、幼・小・中学校及び地域、産業界からの参加を得て、一貫したキャリア教育を展開した。

田上小学校は地域に出て田上の良さを体験したり調べたりする「田上学」と地域の方から学ぶ「寺子屋授業」、羽生田小学校は「見つけよう田上の宝～身近にあるもの、梅・竹・米～」を学習のテーマに設定し、「田上の宝」を探す活動、田上中学校は「地域に学び、地域とつながり、地域の未来を考える」をテーマにした地域学習など、ふるさとを大切に思う心を育てる活動に取り組んだ。学校・保護者・地域が一体となって応援していく取り組みを活性化するとともに、保護者と地域の方々への周知と理解を図ることができた。

【課題・意見】

感染症の影響で活動が制限される中、各学校は学校独自の特色ある学習を提案し、児童生徒も積極的に取り組んでいる。今後も地域において実施される活動に積極的に参加し、多くの人と関わることで田上への愛着心を育む活動に取り組んでほしい。

(3) 学習指導要領の徹底

評価：a (a)

【事業の概要】

学習指導要領の趣旨を徹底するとともに、その目標を達成できるように幼稚園、小学校、中学校が連携して取り組む体制を構築する。

【成果】

学習指導要領と田上の12か年教育とのつながりを明示し、田上の教職員が努力と創意すべき事項を確認し合えるようにした。小中学校がプログラミング教育を自校の年間指導計画に位置付けて確実に実践できるよう支援するとともに、小中学校でのmBot（プログラミング教材）の共通活用による指導の充実、タブレット端末へのMEXCBT（メクビット：オンラインの学習システム）の導入準備などを推進した。

【課題・意見】

新潟県教育委員会の施策である教員一人一人のOJT（On the job training：日常業務につきながら行う教育訓練）で力量を向上させる。田上町の小中学校のICTの取組の概要を保護者と地域の方々に周知して、その実効性向上につないでいく。

家庭や地域との連携

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

家庭、地域、学校が連携することにより、町全体で子どもを育む体制を構築するとともに、「開かれた学校」づくりを目指す

(1) コミュニティ・スクール

評価：b (b)

【事業の概要】

「開かれた学校」から1歩前進し、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を表現していくのかという目標やビジョンを保護者・地域の皆さんと共有し、地域と一体となって子どもたちを育む、「地域とともにある学校」を目指す。

【成果】

平成29年4月1日に小中学校3校で学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールをスタートした。感染症の影響で活動が制限される中、学校地域コーディネーターの関わりにより、まだ平常までとはいかないが、学校と地域が接する機会が増えた。

【課題・意見】

「地域とともにある学校」を目指し、制度の浸透・地域の理解を深めるため、学校、学校運営協議会委員及び学校地域コーディネーターがさらに連携し、町全体で子どもを育む体制の構築に努める。

(2) アウトメディア・ウィーク事業

評価：a (a)

【事業の概要】

幼稚園年中から中学校3年生まで、園児・児童・生徒が在籍する全家庭を対象に、家庭での子どものメディア接触について、家族で考え、家族でルールを作り、家族で取り組むことを促す。

【成果】

町教研養教部会と連携して、年3回実施した。メディア接触に伴う様々な問題や発達

段階に応じた具体的な取組を保護者に周知した。小学校の保護者77%以上、中学校の保護者の67%からアンケートの回答があり、関心は高いと思われる。「今回、改めて眼や健康の大切さを子供たちと話し合った。」「ゲーム時間が長い。もっと時間の使い方について話し合おうと思った。」といった肯定的な受け止めが多かった。

【課題・意見】

「家庭でスマホ使用の約束はあるか」に「ない」と回答する割合が、小学6年生から中学3年生まで増加する傾向がある。田上の子をネット使用等で加害者にも被害者にもさせない取組が必要である。

(3) 夢ナビカルテ事業

評価：c (c)

【事業の概要】

県教育委員会が推進する「郷土愛を軸としたキャリア教育の推進」を積極的に活用して、田上の児童生徒に「田上への愛着や誇りをもち、未来を切り拓く力」を育てる。

【成果】

総合的な時間を中核にして、町ぐるみで児童生徒が田上で学ぶ活動に取り組み続けている。学校は、児童生徒が多様な人々の生き方を知ったり、様々な職業を体験したりしながら、自分の学習や生活に活用することを大切にしている。一人一人が整理したキャリア・パスポートを小学校から中学校へ、中学校から高等学校に引き継いで指導に活用している。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症に伴う学校行事の見直しや授業時数確保等の観点から、十分な活動時間の確保が困難だった。キャリア・パスポートを家庭での話題にして、児童生徒の主体的な学習や生活に活用できるようにしたい。

(4) 田上夏まつり運営サポートスタッフ事業

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学生が田上夏まつりに運営サポートスタッフとして参画することで、自己有用感を高めるとともに、地域との多様な関わりをもつ機会を提供する。

【成果】

企画などの準備をしていたが、昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催中止とした。

【課題・意見】

近年、先生の声掛けのおかげで募集人数を確保できているのが現状であるため、参加者増が見込めるような活動内容の工夫、検討が必要である。

企画、準備を進めていたが、結果的に中止となった。次年度への期待を込める意味で昨年度と同じ評価とする。

(5) 小中合同あいさつ運動

評価：c (b)

【事業の概要】

小中学生が、合同であいさつ運動を展開する。あいさつを通じて社会性を育む。

【成果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、中学校の生徒会役員とボランティアが

両小学校を訪問し、小中学生が一緒になって行うあいさつ運動を中止（2年連続）とした。小中学校は、それぞれ、のぼり旗であいさつを呼び掛けたり、代表児童生徒があいさつリーダーになったりして、全校で意欲的にあいさつ運動に取り組んだ。

【課題・意見】

「きちんと挨拶できる」ことへの生徒の自己評価と教師の評価は、大変高い。田上町全体の活動にして、園児・児童・生徒・地域があいさつで交流し合う取組に育てていきたい。

教育環境の整備

総合評価：B（75.0）

施策のねらい

教育環境の整備を行うことで、円滑な学校運営、学びの環境を確保する

(1) スクールバスの運営

評価：b（a）

【事業の概要】

通学距離等の理由により、通学が困難な児童生徒の通学時間の短縮・通学時の安全確保を図る。

【成果】

小中学校にマイクロバスを各2台配置。田上小学校105人、羽生田小学校61人、田上中学校78人が利用した（マイクロバス利用申請者数）。登下校の送迎の他、校外学習での移動、公民館事業においても運行した。また、月ヶ岡特別支援学校への登校も令和3年4月より開始し3名の児童生徒が利用した。

【課題・意見】

令和4年度に全バスが15年を経過する予定であり、又、令和3年度からは月ヶ岡特別支援学校への送迎も始まり走行距離が今までより多くなる中で、老朽化による突発的な故障も増え、長期のバスの修繕には、バスを修理工場に預け、町のマイクロバスを借りるケースも発生した。今後、運行に支障がでないよう、計画的にバスの入替（購入又はリース）を行う時期にきている。

又、令和3年度末に2名が退任した際に、運転手の募集をしたが申込がなく、令和4年度は竹の友幼稚園の運転手1名より小学校のバス運転手へ、1名は派遣業者と委託契約を結び運転手を確保したが、運転手の確保が今後は益々難しい状況になると思われる。

(2) 児童クラブの運営

評価：b（b）

【事業の概要】

小学1年生から6年生を対象に、希望する児童に放課後保育を実施する。

【成果】

開設日数は、田上小学校264日（平日202日、土曜・長期休業62日）、羽生田小学校286日（平日200日、土曜・長期休業86日）。利用者は下表のとおり。

マスク着用や消毒など新型コロナウイルス感染症拡大防止の対策を徹底して行い、クラブの安全な運営を達成した。

単位：人

	登録者数	延べ利用者数		
		平日	長期休業・土曜日	計
田上小学校	72 (-8)	5,674 (+1,366)	1,161 (+131)	6,835 (+1,497)
羽生田小学校	88 (+9)	5,977 (+713)	1,472 (+383)	7,449 (+1,096)
合計	160 (+1)	11,651 (+2,079)	2,633 (+514)	14,284 (+2,593)

※ () 内、前年度比

【課題・意見】

登録者数の増減は大きくないが、延べ利用者数が増加しており、保育ニーズが大きくなっている。新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、マスク着用や手指消毒を徹底するほか、各児童クラブを2グループに分け密を避けるよう配慮しているため、指導員の勤務時数や業務量が増加している。

(3) 学校給食費補助事業

評価：b (b)

【事業の概要】

食味のよい地元産コシヒカリを用いた米飯給食の普及定着と、米消費拡大、給食費の保護者負担の軽減に努める。また、地元農家やJAと協力して地元産食材を中心とした献立を展開する。

【成果】

852千円を補助し地元産コシヒカリの米飯給食を提供した。また、地元産の食材を給食に使用できるように納品組合と協力して取り組んだ。

【課題・意見】

地元産の食材は、旬の時期をはずれると、生産量や品質等が安定しないことがある。

(4) 学校施設の計画的な改修

評価：b (a)

【事業の概要】

学校施設等の維持管理のための適正な管理と計画的な改修を行う。

【成果】

屋内消火栓耐圧ホース取替修繕(3校)1,107,700円、屋外遊具(ブランコ・雲梯)修繕(田上小)880,000円、屋外遊具(はん登棒)修繕(羽生田小)748,000円、グラウンドフェンス修繕(田上中)660,000円等、修繕を行った。

また、網戸設置工事(田上小)127,600円、体育館ステージ裏窓転落防止柵設置工事(275,000円)、防犯カメラ設置工事(3校)686,400円等、工事を行った。

【課題・意見】

空調設置やWi-Fi整備など大きな事業は終了し、不具合箇所等の修繕を行った。各学校とも築30年以上が経過し老朽化が進んでいる。長期的な展望に立ち、適切に維持管理していく必要がある。

(5) 教育教材等の計画的な整備

評価：b (b)

【事業の成果】

教育用コンピュータをはじめとした教育教材等を計画的に整備し、教育環境の向上を

図る。

【成 果】

両小学校ではプログラミングロボット 41,250 円をそれぞれ購入した外に、学校より必要な備品を聞取りし、田上小では立体模型 57,860 円、羽生田小では書写水書板 14,025 円、田上中は生物顕微鏡 31,900 円やクラシックギター28,400 円など様々な教科にて使用する備品を購入した。

【課題・意見】

1人1台端末では、学校での使用のほかに、持ち帰りで予習・復習などを行おうとした場合などは、各家庭にインターネット環境に違いがあり、ルール化が難しい。又、今は購入後間もないが、いずれは経年劣化等でまとめて買換えをする時期が来るが、その費用について、国からの補助がなく全額町負担となった場合は大きな金額がかかるので年度更新などの計画を立てておく必要があると考える。

2. 教育内容の充実

学ぶ意欲と確かな学力の向上

総合評価：A (85.0)

施策のねらい

- ・ 学力の向上
- ・ 教職員の指導力の向上

(1) 管理指導主事の配置

評価：a (a)

【事業の概要】

学校運営と学習指導に係る適切な指導助言、就学指導、人事等にあたる。

【成果】

主体的・対話的で深い学びを目指す学習過程や協働的学習の組織等の具体が3校で共有され、授業改善の大切な視点になり始めている。3校では、学習課題の提示を共有して、児童生徒に学習のめあてを意識させるまでに授業改善が推進された。校長が学校経営に活用できる資料の収集と提供にも努めている。「自分の授業改善を自分でつくる」をねらいとする希望者研修への申込数が増加している。事故対応や各種報告、人事案件等では、学校と連絡調整を密にして連携している。

【課題・意見】

特別支援教育に豊かな経験をもつ教諭の確保、学級担任を担える講師等の確保が、これまでになく困難になっている。

(2) 園・校長面談

評価：b (b)

【事業の概要】

各園学校の運営方針とランドデザインに基づいて学校評価、進捗状況を確認し合い、改善すべき事項等を明確にして学校運営を支援する。

【成果】

各園校長と人事や多忙化解消等について各園校の課題とその解決のプロセスを確認し合うだけでなく、幼小中連携に係る改善や学習指導要領への取組状況、教職員の様子などについても共有し合えるので有益である。

【課題・意見】

管理職のリーダーシップの育成、カリキュラム・マネジメントといった学習指導要領対応への強化を継続していく。「田上の12か年教育」との関連付けを図っていく必要がある。

(3) 田上町教育研究協議会支援

評価：a (a)

【事業の概要】

幼稚園、小中学校の教職員の連携による「田上の12か年教育」の充実に取り組む研修、活動費用等の支援にあたる。

【成果】

一斉研修に「田上の12か年教育」を理解し合う場を設けた。この場の設定は、田上町の特色の一つであり、転入職員にも有益である。共通理解したい事項は資料にして全員

配付し、校内研修にも活用できるようにした。幼小中が組織として取り組むべき事項並びに一人一人が努力・創意すべき事項等を理解し合い、教務室の話題にしていく機会にした。

【課題・意見】

毎年、田上町グランドデザインを更新して、一人一人の「選択と集中」事項を示し、効率的で実効性ある「田上の12か年教育」に改善していく。

(4) N R T 検査

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学校において、客観性の高いN R T検査（標準学力検査／集団基準準拠検査）を実施し、学力定着状況並びに同一集団の推移を把握して授業改善に活用する。

【成 果】

小学校1年生から中学校3年生までの実態を把握することができ、その結果を基に各校長と情報を共有し、指導の改善に反映させた。

【課題・意見】

小学校では国語と算数の学力向上に取り組み、その他の教科への関心が希薄になる傾向がある。町の教職員が、自分の担任学級でなくても、担当していない教科であっても、町の児童生徒の学力に関心を強くすることが、学力向上には欠かせない。

(5) W e b 検査

評価：b (b)

【事業の概要】

県教育委員会のW e b 配信システムに参加して、単元ごとの定着状況をきめ細かく把握し、授業改善に活用する。

【成 果】

年毎の結果と問題別正答率等を学校別に作成して、各学校に情報提供した。同集団の経年変化を提供して、学校が目の中の児童生徒の学力実態に関心を高めることができるようにした。

【課題・意見】

検査結果を学校運営や学習指導の改善につないで、特色ある学校づくりに活用できるようにしたい。

創意工夫を生かした教育活動の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 郷土愛を育む教育活動の展開
- ・ 国際化、情報化に対応した教育の推進
- ・ 創意工夫を生かした教育活動の充実

(1) 総合学習事業

評価：b (b)

【事業の概要】

地域の協力を得ながら、各校の生活科と総合的な学習の時間における町内での多様な活動を支援する。

【成果】

田上の人材活用資料を活用する、グランドデザインに主な活動を掲載して保護者に周知する、学校地域コーディネーターを活用することによって、各校では、活動の評価と見直しが推進されている。

【課題・意見】

現行の活動を学習指導要領の目標や授業時数とのつながりで全校的に見直して、児童生徒がよりよく課題を解決しながら自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けていくことが課題である。

(2) 学校図書司書の配置

評価：b (b)

【事業の概要】

各学校図書館の環境整備、調べ学習支援、読み聞かせなど、児童生徒が図書に触れる機会やつながりを向上させる。

【成果】

各学校に1名の学校図書司書を配置し、毎月約16時間、図書整理や選書作業、児童生徒が本に興味や親しみを感じるような図書館の環境整備に努めた。また、地域学習センターと学校図書司書との連携を図るため、打ち合わせ会議を実施。選書の方法や方針、その他の課題点の共有を行った。

【課題・意見】

月16時間の配置では業務量が制限されるが、担当の教職員と連携しながら図書環境の向上に取り組んでいく。地域学習センターと各学校図書館が連携し、効率良く図書を購入していくとともに、諸課題についての情報共有を図っていく必要がある。

(3) ALT配置

評価：b (b)

【事業の概要】

外国語活動並びに英語指導を補助し、国際理解の推進と英語教育の推進を図る。

【成果】

町全体で3名のALTを幼小中学校に配置し、3歳児から中学校3年生までの子ども達が英語に触れる機会を維持し、英語教育の推進に努めた。

【課題・意見】

令和3年度末にALT1名が自国へ帰ることとなったが、コロナ禍においては、外国人の日本への入国にも制約がかかり新たなALTを見つけることが難しく、幼小中学校4校(園)を残った2名のALTにお願いしたが、2名とも加茂市と掛け持ちしており授業時間が限られるので今後が心配である。

(4) 大学連携事業

評価：b (b)

【事業の概要】

新潟経営大学、新潟薬科大学、新潟中央短期大学と連携し、各大学の教育資源を町の教育に活用する。

【成 果】

新潟経営大学からはスポーツ指導者研修会及びトレーニング教室の講師、新潟薬科大学からは大学連携セミナーの講師やゆうゆう教室の学生スタッフ、新潟中央短期大学からは幼稚園の学生支援スタッフなど、児童生徒の教育活動の多様な機会に連携することができた。

【課題・意見】

今年度は、大学の教授等を講師として派遣していただき、各種研修会や教室を実施することが多かった。

いじめ、不登校に対応した指導体制

総合評価：B (68.7)

施策のねらい

- ・ いじめ撲滅の取組
- ・ 人権教育の展開
- ・ 不登校児童生徒の自学級への復帰支援

(1) いじめ見逃しゼロスクール事業

評価：b (b)

【事業の概要】

小中学生が一緒になり「いじめ」について考え、行動することにより、いじめ撲滅、人権教育の推進を図る。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症対策で、小学6年生と中学2年生だけの小集会となった。24の小グループに分かれてSNSによる悪口の書き込みについて協議し合うことで、中学生は小学生の規範に、小学生は中学生を目標にすることができた。また、よい人間関係づくりについて学ぶことができた。

【課題・意見】

保護者や地域の関心を一層高めて、横軸の連携を充実させることが課題である。

(2) 人権教育、同和教育の推進

評価：b (c)

【事業の概要】

町教職員の人権教育への知識や関心を向上させる。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、第72回全国人権・同和教育研究大会が中止となったものの、12月に新潟県同和教育研究集会が開催され、全国大会で予定していた県内の実践報告者による実践の報告、参加者との討議が行われ、当町からも2名が参加した。また、小中学校合同で同和教育現地研修会を新発田市隣保館で実施。人権・同和教育に関する研修や啓発に努めた。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の影響により、新型コロナウイルス感染者への誹謗・中傷が社会問題化。差別事象を防止するため、人権、同和教育問題への正しい理解を一層推進し、差別の根絶を目指す必要がある。

(3) 訪問相談員配置 評価：b (b)

【事業の概要】

問題を抱える幼児児童生徒やその保護者を対象に、家庭訪問や面談を行い、相談を通して問題の解決を図る。

【成果】

週3日間、訪問相談員を配置し、家庭訪問・面談100回、ケース会議・情報交換等38回を実施。小中学校における不登校、虐待、特別支援など、問題を抱える児童生徒や保護者への相談業務、学校との連携、児童相談所との連携等を行った。

【課題・意見】

近年、不登校傾向の児童・生徒が増えており、本人や家庭が抱える課題が多様化、複雑化している。課題解決に向けては、関係機関との連携、本人のみならず家族への支援などが重要であるとともに、継続した支援が必要であり、不登校を解消するまでには、長い時間を要する。

(4) 適応指導教室 評価：b (b)

【事業の概要】

不登校等の児童生徒に対し必要な学習・教育支援を行う。

【成果】

指導員1名を配置し、不登校等の児童生徒が通いやすい環境を整備し、学習・教育支援を行った。4月は4人だったが徐々に増え、3学期には9人となった。

【課題・意見】

指導員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

特別支援教育の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 就学相談、教育相談の実施
- ・ 支援員を配置し学習支援、生活支援

(1) 教育支援委員会運営事業 評価：b (b)

【事業の概要】

障害のある子どもたちの障害の状態、教育ニーズ、保護者の意見、医学・心理学等専門的見地からの意見等を踏まえ、その子どもに適した就学先を決定していく。幼児期からの教育相談や就学相談を行う。

【成果】

竹の友幼稚園、ルーテル幼稚園、小中学校、教育委員会の担当者を集めた連絡部会を年4回開催している。4歳児から気になる園児の情報交換、行動観察による子ども理解、保護者との個別相談に取り組んだ。また、幼稚園に特別支援コーディネーターを1名配置し、子どもの理解や保護者との相談を行っている。

【課題・意見】

共生社会の形成に向けた「インクルーシブ教育」の重要性が叫ばれるなか、適切な就学・配慮が行えるよう、幼稚園、小中学校、教育委員会が連携し、早期からの情報共有と継続的な相談支援体制の充実が課題。特別支援教育や適正な就学についての保護者への理解の促進と啓発。また、通常学級において特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制を充実していく必要がある。

(2) 支援員配置事業

評価：b (b)

【事業の概要】

特別な支援を必要とする児童生徒の身辺介助や安全確保、教育支援等を行う。

【成 果】

田上小学校6人、羽生田小学校4人、田上中学校3人、計13人を配置。一人ひとりの状況に応じた学習支援、生活支援を行った。

【課題・意見】

一人ひとりに求められる支援はさらに多様化しており、年々支援を要する児童生徒の割合は増加傾向にある。支援員と教職員が児童生徒の情報を共有し、連携した支援が行えるよう体制を整える必要がある。

3. 生涯学習の条件整備

生涯学習推進体制の強化

総合評価：B (62.5)

施策のねらい

- ・ 学習情報の提供
- ・ 生涯学習の体制づくり
- ・ 学習成果を生かせるシステム確立

(1) 生涯学習情報の発行事業

評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習事業や各種大会、図書等の情報を掲載した生涯学習情報を発行する。

【成果】

毎月1回、町内全世帯に配布し、生涯学習事業の周知、参加促進を図ることができた。令和3年2月にオープンした地域学習センターの情報コーナーを設け、利用促進に努めた。

【課題・意見】

わかりやすく見やすい紙面を心がけた。また、各種教室等の情報や、サークル活動情報を掲載するなど身近な話題を発信し、生涯学習活動の促進に努めていきたい。

(2) ホームページによる情報発信

評価：c (c)

【事業の概要】

生涯学習に係る情報を町のホームページに掲載し情報発信する。

【成果】

ホームページ上に生涯学習情報を毎月の発行日に合わせて掲載した。そのほか、駅伝大会、成人式、各種イベントの開催告知、実施報告を電子媒体で行ったことで、事業の周知、参加促進を図ることができた。

【課題・意見】

ほぼ開催告知のみしか、情報を掲載していない。例えば夏休み妙高青少年研修の写真や感想を掲載するなど、これまで以上に町ホームページや道の駅「たがみ」や地域おこし協力隊と連携し、様々な情報をより広く発信したい。

(3) 地区公民館活動補助事業

評価：c (c)

【事業の概要】

地区公民館が行う生涯学習活動を推進するため、その活動に要する経費の一部を補助し、地区の活性化と生涯学習を支援する。

【成果】

16団体に731,000円を補助。子ども会活動事業分では、2団体に28,000円を補助し、生涯学習活動を推進した。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の拡大により予定していた事業を実施できなかった地区が多く、申請額に比して実際の交付額が大幅に少額となった。今後も感染拡大の収束が見

通せないため、生涯学習地区推進員と連携しコロナ禍にあっても実行できる事業を検討するよう機会を見て助言する必要があると思われる。

(4) 研修参加による職員の資質向上 評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習事業等の企画立案から運営まで行える職員の育成を図るため、各種研修会に参加する。

【成果】

県社会教育研究大会、県公民館大会、中越社会教育研究集会、中越地区社会体育総合研修会等、社会同和教育市町村巡回研修会等、各種研修会に参加した。

【課題・意見】

できるだけ各種研修会・研究大会等に参加するよう取り組んでいる。その研修会等で得た情報や新たな関係を基に各事業の改善や新たな事業の企画につなげることが重要。今までの繰り返しだけではなく、新たな企画に取り組む機会を創出していきたい。

指導者・指導体制の充実

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 多様化、高度化する学習要求に対応できる指導体制の確立
- ・ 地域における指導者の発掘と指導者の育成、資質の向上

(1) 生涯学習地区推進員の活用 評価：b (b)

【事業の概要】

各地区に生涯学習推進員を委嘱し、各地区の公民館等を拠点に生涯学習活動への意欲向上、活動援助等を行う。

【成果】

推進員の役割や情報交換など認識を深めるため、年2回会議を実施予定だったが、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から7月に1回のみ開催した。会議では、推進員が各地区で実践できるよう、町社会教育指導員によるアイスブレイクと軽運動の実技研修もあわせて実施した。

【課題・意見】

地区での実践に生かしてもらうためには、推進員自身にいろいろな教室や研修を体験してもらうことが大切と考え、令和元年度から体験型の研修会を実施している。地区で実践しやすい内容の研修を企画していきたい。

(2) 生涯学習ボランティア養成講座 評価：b (b)

【事業の概要】

生涯学習に係るボランティアを育成するため、企画から運営までのスキルアップ講座を行う。

【成 果】

生涯学習地区推進員との連携が不可欠であること、講座を企画するためには体験が重要であり、座学より実践的な内容の方が効果的であると考え、生涯学習地区推進員会議の研修と合わせて、町社会教育指導員によるアイスブレイクと軽運動の実技研修を実施した。

【課題・意見】

広報チラシの内容を再検討するなどし、生涯学習地区推進員のように町から委嘱されている方以外にも、新規の参加者・人材を呼び込める内容にしたい。

施設整備

総合評価：A (87.5)

施策のねらい

- ・ 学習環境の整備

(1) 田上町交流会館の運営

評価：b (b)

【事業の概要】

老朽化した町公民館の代替施設及びまちづくりの拠点整備として、田上町交流会館を建設した。

【成 果】

令和3年度においては、新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、42,047人の利用があった。道の駅「たがみ」との連携した事業もあり、町外の方々からも利用していただいた結果、田上町をPRすることができた。

【課題・意見】

田上町公民館で活動していた各団体が概ね交流会館に活動拠点を移すことができた。図書機能が地域学習センター開所に伴い移転したため、子どもや親子の利用が減った。親子や子どもの利用を促すイベント等を企画していきたい。

(2) 田上町地域学習センターの運営

評価：a (a)

【事業の概要】

田上町交流会館と合わせ、図書館機能を持つ生涯学習及びまちづくりの拠点整備を行うため、原ヶ崎交流センターを改修し地域学習センターを整備する。

【成 果】

令和3年3月8日オープン。令和3年度の貸出冊数、使用者数は次のとおり。

	貸出冊数	貸出人数	研修ルーム等 使用者数
H22～H30 平均	5,454 冊	2,634 人	—
令和2年度	1,944 冊	441 人	158 人
令和3年度	23,281 冊	5,308 人	648 人

【課題・意見】

地域学習センターオープン前に比べ、貸出冊数で4.2倍、貸出者数で2.0倍となった。利用促進に努めるとともに、蔵書を増やしていく必要がある。

4. 主体的な学習活動の支援

学習機会の充実

総合評価：B (79.5)

施策のねらい

- ・ 各年齢層における学習ニーズに対応した講座、教室の開催
- ・ 多様化する現代的課題に向けた学習機会の提供
- ・ 郷土の理解を深める各種講座、教室の開催

(1) ゆうゆう教室

評価：b (b)

【事業の概要】

レクリエーション、自然体験、創作活動等を通じ、楽しむことの中から子ども達の自主性や協調性、創造性及び豊かな情操を育む。

【成果】

子どもの感染者が増加している中で人数制限をしながら開催した。新潟薬科大学からの協力もあり実施したスライム作りは好評だった。次年度も新潟薬科大学や新潟経営大学、新潟中央短期大学と連携し事業を行っていききたい。

【課題・意見】

昨年同様高学年の参加者が少ない傾向にあり、今後の参加者を確保するためにも高学年を呼び込めるよう内容の検討が必要。そのほか、新潟経営大学や新潟薬科大学、新潟中央短期大学などとの連携事業についても内容を協議し開催していききたい。

(2) 夏休み妙高青少年研修

評価：b (c)

【事業の概要】

自然体験や集団体験を通して生きる力を育むとともに、地域活動等でリーダーとして活動できる青少年の育成を図る。

【成果】

コロナ禍の状況で施設利用者（団体）も少なく、安心して活動する事ができた。中学生が小学生を引っ張る、小学生もリーダーを助ける様子を見ることができた。

【課題・意見】

次年度はコロナウイルス感染症の拡大動向に留意しつつ、可能な限り開催したい。

(3) 子ども夏休み教室

評価：b (b)

【事業の概要】

遊びや伝統文化、生活、自然の中での体験により、心身の健やかな成長をもたらす学習機会を提供する。

【成果】

3つのプログラムを計画・実施し、総計118名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

プログラム名	参加者
①砂絵アート	13名
②道の駅からの星空観察	親子58名
④ニジマスのつかみ取り	47名
合 計	118名

(4) 大人のためのゼミナール

評価：b (b)

【事業の概要】

主に成人向けの各種教室（講座）を開催し、青年、壮年層の生涯学習参加へのきっかけづくりとする。また、生涯学習指導者の発掘の場とする。

【成 果】

6つのプログラムを計画・実施し、合計66名が参加した。プログラムの内容及び参加者の内訳は下表のとおり。

プログラム名	参加者
タイルアート教室	7名
おりがみワークショップ	10名
吊るし雛作り①	10名
吊るし雛作り②	14名
吊るし雛作り③	10名
おうちカフェ 団子作り	15名
合 計	66名

【課題・意見】

吊るし雛については、町観光協会、道の駅、椿寿荘と連携し「ひなめぐり」の中で、作品を展示する事ができた。次年度以降に実施する予定としたい。今後も道の駅と連携した中で事業を実施したい。

(5) 生涯学習行政出前講座

評価：c (c)

【事業の概要】

町が重点的に取り組んでいる施策や暮らしに身近なテーマなどを用意し、職員が出向き直接町民に説明、意見交換することにより、町政への関心を深めるとともに、生涯学習意識の啓発と行政の活性化を図る。

【成 果】

地域住民を対象に「認知症」について出前講座を1回開催した。

【課題・意見】

今後も事業を継続していくとともに、より認知度を上げるべく町民への周知を行っていく。

(6) ストレッチ教室

評価：a (a)

【事業の概要】

家庭でも気軽にできる体操を通して、日常生活に運動を取り入れ、健康増進、体力向

上を図る。

【成 果】

コロナ禍においても、町内外から多くの参加があった。感染拡大のため9月は中止したが、参加者は延べ807名と昨年比126人の大幅増となった。会場が交流会館多目的のホールに移ったことで会場の定員が増加したほか、三條新聞に当事業の記事が掲載され知名度が向上したことも要因の一つと考えられる。一番多い4月は2回合計で102名の参加があった。当事業は健康づくり教室として定着している。

【課題・意見】

参加者より「自粛期間中に体力が低下した」との声があったため、感染症拡大防止に努めながら可能な限り継続して実施し、町民の健康づくりを支援する。

(7) 早朝ハイキング

評価：a (a)

【事業の概要】

朝の清々しい空気を吸いながら護摩堂山を登り、頂上でラジオ体操を行うなど交流を深める。納会では皆勤賞、精勤賞を表彰する。

【成 果】

8月は雨のため中止した関係で、7回の予定が6回の実施となり、延べ159人が参加。11月には納会を開催し、皆勤賞10人、精勤賞9人を表彰した。

【課題・意見】

11月の納会については、田上町交流会館の多目的ホールで実施した。今後も継続し、町民の健康づくりを支援する。護摩堂山への登山者が多いにもかかわらず新規参加者が少ないのは各自のライフスタイルによって自由に登山する傾向となっている。令和元年より護摩堂山入口と山頂にポスターを掲示し、山頂に登山された方にチラシを配付しながら実施しており、最近ようやく新潟市在住の方などから数名参加者が増えつつあるが、高齢で今まで参加された方が参加しなくなるなどの課題もある。今後も引き続き、新規の参加者を呼び掛けていく必要がある。

(8) 囲碁将棋大会

評価：b (b)

【事業の概要】

囲碁将棋を通じ参加者同士の交流、親睦を深める。

【成 果】

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策により田上町交流会館の多目的ホールを使用し、高齢者も多いことから昨年同様に、テーブルと椅子による対戦とした。囲碁の部は20人、将棋の部は23人、計43人（前年度比：15人増）が参加した。

【課題・意見】

囲碁、将棋の普及、町民のコミュニケーションの場として機能している。今後も継続していきたい。また、引き続き若い人からの参加を呼び掛ける必要がある。

(9) ふるさと歴史講座

評価：a (a)

【事業の概要】

田上町、その他の歴史と文化について学習し、郷土意識を高める。

【成 果】

「北越戊辰戦争と田上～人々はどのように迎えたのか～」と題して定員25人に対して25名が受講した。戊辰戦争があった時に北越地域でどのようなことが起きていたのか。また、田上の両田巻家やその当時の若者や女性たちはどうしたのかなど歴史的な背景とそこに織りなす人間模様など併せて解説し、受講者からはとても良かったと好評だった。

【課題・意見】

交流会館の部屋の都合で定員を25名としたため、受講したくてもできなかった方が大勢いたことから、再度実施して欲しいとの声があったので、来年度春先にもう一度実施することにした。今後も参加者のニーズをとらえての講座開設に努めるとともに、田上町の歴史などについて深く掘り下げ興味深く質の良い講座を提供できるようにしたい。

(10) 人権講座

評価：b(c)

【事業の概要】

町民の差別問題を始めとする人権問題に対する正しい理解と認識を深め、人権感覚の育成を図る。

【成果】

新潟県、町民課と連携し、「病をさずかって見えたもの～キャンサーギフトという生き方～」と題して、フリーアナウンサーの伊勢みずほさんを講師に人権講演会を実施（参加者数93人）。また、「考えよう相手の気持ち」を題し、上田晋三さんを講師に、中学校で人権講演会を開催した（参加者数154人）。

【課題・意見】

講師の知名度の高さ、及び中学校での開催ということで、多くの参加があった。講座内容や実施方法等を工夫し、人権啓発に努めていく必要がある。

(11) 家庭教育セミナー

評価：b(b)

【事業の概要】

子どもの心理や心身の成長に伴う親の役割、関わり等について学ぶ機会を提供し、家庭での教育力の向上を図るとともに、家庭教育の重要性について認識を深める。

【成果】

親子クッキングは、コロナ禍のため、試食なしの持ち帰りで、人数を制限し実施した。親子リフレッシュ講座では、「親子で初めてヨガ体験」を交流会館で実施した。親子で、ゆっくりのんびりヨガを体験し、参加者はとてもリフレッシュした様子だった。

【課題・意見】

次年度は、田上町地域学習センターの活用も検討。

主体的な活動への支援

総合評価：B(66.6)

施策のねらい

- ・ 指導者の養成
- ・ 自主的なグループ活動の支援

(1) 体験活動支援センター 評価：c (c)

【事業の概要】

地区やPTA、個人の生涯学習活動及び体験活動を支援するため、情報の収集と提供を行う。

【成果】

地区行事、学校行事など計4件の相談があった。

【課題・意見】

コロナ禍もあり地区での行事を実施する事が難しい状況であったため、相談件数も少なかった。体験支援センター相談者が毎年同じ地区やPTA関係者であり、全体の受付件数も多いとはいえない。町民への周知が不足していると思われるため、生涯学習情報にPR記事を掲載するなどして知名度を高める必要がある。そのほか、様々な相談に対応できるよう「貸出用品リスト」の作成、学校や地域コーディネーターとのより強固な連携など積極的に活用してもらえる体制を整えていきたい。

(2) 各種サークル活動の育成 評価：b (b)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

(3) 成人式 評価：b (b)

【事業の概要】

新成人を祝うと同時に、大人としての自覚を高めてもらう。

【成果】

新成人による実行委員会を組織したことで、普段町事業と関わりの少ない青年層が主体的になって活動ができた。出席者に陰性証明等を求めることにより、感染者を出すことなく開催をすることができた。

【課題・意見】

出席率が対象者全体の半分強程度（150人中98人、65.3%）の出席状況であった。引き続き、より多くの新成人から出席してもらえるような計画を実行委員と意見を交わしながら立てていきたい。

5. 生涯スポーツの推進

生涯スポーツの普及

総合評価：B (70.0)

施策のねらい

- ・ 誰もが気軽に楽しめるような体制づくり並びにニュースポーツの普及
- ・ スポーツの正しい知識や技術、マナー習得ができる各種教室の開催
- ・ スポーツ振興を促進するための指導者の育成、研修会等の実施

(1) 田上町スポーツ協会との連携と支援 評価：b (b)

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成果】

各種大会の委託について、導入から6年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

(2) 佐藤杯争奪町内駅伝競走大会 評価：b (b)

【事業の概要】

青少年のスポーツ振興を図るため、郷土の生んだマラソン界の権威である佐藤秀三郎氏より優勝杯が贈られた。その争奪戦として、並びに町内の青少年の体力・精神力の向上を目的に開催する。

【成果】

新型コロナウイルス感染症が広がる中、「町内の部」、「女子の部」の2部門で開催した。当日は計11チームがエントリーし、町スポーツ協会関係者やスポーツ推進委員からも協力を得ながら円滑に大会を開催することができた。

【課題・意見】

道の駅「たがみ」オープン時間前にスタートすることにより、走路を確保することができた。11月開催のため、雨により運営が難しくなる傾向にある。また、従事役員数の確保に苦しんでいる。近年は田上町陸上競技協会の紹介で専門知識を持った競技役員を多く派遣していただいているが、町内の有志や大学連携事業を活用する等、広くボランティアを募っていきたい。

(3) 田上町スキー教室 評価：c (c)

【事業の概要】

スキー技術の習得・向上とともに、スキーの楽しさや冬山の自然体験を通じて、町民相互の交流を促進する。

【成果】

新型コロナウイルス感染症の影響により、日帰りでの開催等をスキー協会と協議したが、感染拡大防止の観点からやむを得ず中止した。

【課題・意見】

コロナ禍により令和2年に引き続き中止となり、参加者離れが懸念される。また、例年スノーボードでの参加希望がある。スノーボードの指導者確保が課題となっている。

(4) スポーツ推進委員主導による生涯スポーツの普及 評価：b (b)

【事業の概要】

スポーツ振興を促進するための指導者育成、研修会等を実施する。

【成果】

4つの体育行事（ソフトボール大会、佐藤杯駅伝、ゆうゆう教室、モリモリ大学）の計画・運営を行った。昨年から開催している「モリモリ大学」は、研修会で学んだ知識を活かして、町内ウォーキング、ニュースポーツ教室を企画・開催することができ、参加者からも好評だった。

【課題・意見】

スポーツ推進委員が主体となって町内でのスポーツ振興に関わっていけるよう、研修会への参加、機会の提供を行っていきたい。

(5) ちょいトレ 評価：b (新)

【事業の概要】

運動習慣定着のきっかけと健康増進の一助となることを目指す。

【成果】

町保健福祉課と連携することにより運動習慣が必要な方に運動の機会を提供する事ができた。また大学連携により新潟経営大学の荻原先生、宇佐美先生を講師として開催することができた。延べ77人が参加した。

【課題・意見】

2～3月に開催したため、参加しづらいとの意見があった。参加しやすい開催時期そして内容を検討する必要がある。

スポーツ施設の整備

総合評価：C (50.0)

施策のねらい

- ・ 各種体育施設の整備充実
- ・ 学校体育施設の有効活用、管理運営体制の確立

(1) 体育施設の維持管理 評価：d (d)

【事業の概要】

各体育施設の適正な維持管理を行う。

【成果】

羽生田野球場の高圧ケーブル取替他修繕(869,000円)、バルブ取換修繕(132,000円)、

町民体育館の誘導灯修理（136,400円）を始め各施設の維持管理に努めた。

【課題・意見】

施設の老朽化に伴い、日常的な点検や計画的な修繕、管理を行う必要がある。

(2) 学校開放事業

評価：b (b)

【事業の概要】

夜間、休日等に社会体育施設の補完施設として、小中学校の体育施設を一般団体へ貸し出すことで生涯学習、スポーツの推進を図る。

【成果】

小中学校の体育館、中学校の武道場について学校開放を行った。申請が被った際は団体間で調整して利用していた。

施設名	利用団体数	利用者数
田上中体育館	202 (+20) 団体	2,443 (+53) 人
〃 武道場	152 (+23) 団体	1,477 (+291) 人
田上小体育館	605 (+33) 団体	10,723 (+1,670) 人
羽生田小体育館	206 (+30) 団体	6,046 (+1,769) 人
合計	1,166 (+107) 団体	20,689 (+3,803) 人

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症の影響を懸念されたが利用団体、利用者数ともに増加した。田上小学校及び羽生田小学校の体育館では、団体の加入者数が増加したため、利用者数が増加している。

今後、利用団体が増加した場合、抽選等を検討する必要がある。また、学校施設は限られており、施設を長く使ってもらうため、利用団体には施設利用について注意を呼び掛けていきたい。

主体的な活動の促進

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 田上町スポーツ協会を中心とした各団体の育成強化と競技力向上
- ・ 生涯を通じた豊かなスポーツライフの実現及び多様なニーズへの対応
- ・ スポーツに対する認識の高揚

(1) 全国大会出場者への褒賞制度

評価：b (b)

【事業の概要】

スポーツ・文化を通じて、町の代表若しくは団体の代表として各種競技会に参加、または審査会、発表会等で優秀な成績を収めた町民を褒賞する。

【成果】

全国規模の競技大会、コンクールに出場した町民延べ43人に、430,000円を授与した。コロナ禍においても大会が開催されたため、全国大会の出場者が大幅に増加した（前年度比：+35人）。

【課題・意見】

制度の周知に努め、申請漏れを防いでいく必要がある。

(2) 田上町スポーツ協会との連携と支援（再掲）

評価：b（b）

【事業の概要】

体育協会、スポーツ少年団、スポーツクラブが合併し結成された田上町スポーツ協会と連携し、生涯スポーツの普及を図る。

【成 果】

各種大会の委託について、導入から6年目を迎えた。新型コロナウイルス感染症が広がる中、感染症対策を行い各種大会運営や大会に代わる事業を開催した。スポーツ協会と各競技団体の連携を取りながら、各種大会を実行することができた。

【課題・意見】

スポーツ協会における財源不足や人材確保などの課題が残っている。今後も継続して支援を行うとともに、相談の場を設けるなど連携体制を強化していく必要がある。

6. 芸術・文化の振興

芸術文化活動の推進

総合評価：B (75.0)

施策のねらい

- ・ 各種団体などに日頃の活動成果を発表する機会の提供
- ・ 優れた芸術文化を鑑賞する機会の提供
- ・ 各種開催情報の提供、活動への参加促進

(1) 文化祭の開催

評価：b (b)

【事業の概要】

美術及び芸能を愛好する町民の創作を発表する場であると同時に、日常生活の中で芸術文化に親しむ心を養う。

【成果】

昨年同様に新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となり、展示の部については、個人・団体併せて30団体、作品数は約201点以上の出展数となり、芸能の部では、出演団体18団体(172人)、18プログラム。開催期間2日間で1,485人の来場者となった。

【課題・意見】

昨年同様に感染症対策のため展示の部と芸能の部との動線を分け、2階の研修室をそれぞれ仕切らずにオープンにしたことにより見やすく観覧者の動線もよくなった。また、昨年の課題であった展示作品に照明があたらず暗いとの意見に対して照明器具を取り付けたことから作品がよく見え良かった。文化祭の開催時期について関係者にアンケート調査を実施したら、10月開催が多かったことから、来年度は時期について検討する必要がある。

(2) ロビーコンサート等の音楽振興

評価：b (b)

【事業の概要】

発表の機会をつくとともに、芸術文化を鑑賞する機会を提供する。

【成果】

「交流会館コンサート」として4回開催し216名が参加した。ピアノや合唱等と幅広い内容でクリスマスコンサートやニューイヤーコンサート、また、道の駅「たがみ」、椿寿荘、町観光協会が連携して取り組んだ「たがみひな巡り」イベントでは、開催期間中に「ひなまつりコンサート」を開催した。

【課題・意見】

交流会館多目的ホールのピアノだけではなく、中ホールやホワイエのピアノ等の活用や、道の駅「たがみ」テント下での野外コンサートなども検討していきたい。

施策のねらい

- ・ 文化協会など各種団体との連携、協力体制の強化
- ・ 各種団体などの活動促進

(1) 芸術、文化に関する指導者、活動組織の育成 評価：b (b)

【事業の概要】

公民館・交流会館等で活動するサークルの相談や情報発信などの支援を行う。

【成果】

生涯学習情報を活用し、参加者募集やサークル開催日等の情報発信を行うとともに、サークルからの相談に応じた。

【課題・意見】

引き続き、次代を担う若い方からも自主サークルなどの結成を促さなければならない。

(2) 文化協会への支援 評価：b (b)

【事業の概要】

文化協会との連携、協力体制の強化。

【成果】

文化協会の活動費の一部 230,000 円を補助した。また、町文化祭を連携して田上町交流会館で実施した。

【課題・意見】

新型コロナウイルス感染症に伴い、各団体の活動が制限される中、比較的文化協会加盟団体数は28団体と昨年より2団体増加した。また、加盟登録者の高齢化も顕著になり、引き続き新規サークルの結成や支援をしていく必要がある。

7. 文化財と伝統芸能の継承

文化財の保存・活用

総合評価：C (58.3)

施策のねらい

- ・ 文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発
- ・ 指定文化財所有者の協力による保存

(1) 指定文化財の管理助成 評価：c (c)

【事業の概要】

指定文化財所有者の保存に対して、その費用の一部を助成する。

【成果】

国指定文化財：1件 10,000円
県指定文化財：1件 10,000円
町指定文化財：4件 20,000円
名木管理助成：7件 35,000円
名木保護事業：1件 200,000円

【課題・意見】

名木保護の観点から、名木の樹木保護にかかる経費を補助する田上町名木保護事業補助金を創設。東龍寺杉の保護事業に対し補助を行った。各管理者が文化財の管理を安定して行えるよう、引き続き助成を行っていく。

(2) 文化財の一般公開 評価：c (c)

【事業の概要】

文化財や埋蔵文化財などの文化的遺産の啓発。

【成果】

民俗資料館での常設展示中であるが、役場ロビーに展示していた行屋崎遺跡出土品については役場ロビーの多目的使用(他業務の受付など)により10月を以て撤去した。

【課題・意見】

民俗資料館については、令和元年9月より連絡先が交流会館に移ったことから、これから見たいという観覧者には鍵を開けるまで待つことになるが、支障はでていない。行屋崎遺跡の出土品展示が古く、役場ロビーの多目的な使用となったことにより10月を以て撤去したため、今後展示場所とその方法を工夫する必要がある。

(3) 埋蔵文化財試掘調査 評価：b (b)

【事業の概要】

県営ほ場整備事業に伴い田上郷田横場地区の試掘調査を行った。

【成果】

調査面積約400,000㎡(トレンチ数：149箇所)の試掘を実施。土師器1点、珠洲焼1点が出土したが、遺跡認定するまでには至らなかった。

【課題・意見】

田上郷横場地区の約50%の試掘調査が終了。次年度で終了を予定している。

施策のねらい

- ・ 各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場、PR活動の促進、後継者の育成支援

(1) 伝統芸能の保存のための支援と公開 評価：c (c)

【事業の概要】

各種保存団体との連携による伝統芸能の発表の場の確保や後継者の育成支援を行う。

【成果】

田上甚句太鼓保存会による小学校でのクラブ活動指導など、学校と甚句保存会が連携した取り組みを行った。また、道の駅「たがみ」と連携し道の駅イベント時、発表の場を提供することができた。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。各団体と情報交換を行っていききたい。

(2) 小学校での伝統文化継承 評価：c (c)

【事業の概要】

伝統芸能の伝承のため小学校と連携した伝承活動を展開する。

【成果】

田上甚句については、小学校でのクラブ活動指導、運動会前の講習会、小学生の発表支援を行った。

【課題・意見】

甚句太鼓保存会については一定の支援・連携が行えているが、五社神社や川前地区の神楽舞とは十分な連携が取れていない。今後、文化協会など各団体と情報交換を行っていききたい。